石谷新聞

07.12.No128
発行・責任 南岡日出夫
0883-88-5292

陽だまりが恋しい季節になってきました。あっという間に、秋が走り去り、祖谷の山々も、モノトーンの世界が広がる。なんとなく、身体をかたくしてまるくなって歩くようになっている。

十一月は、祖谷にとっては、華やぐ季節でもあります。人工林が多いとはいえ、何処へ行っても赤や黄の色に染められて、紅葉狩りの人々でにぎわった。

私達も、祖谷の景色を楽しむ一日をもてました。毎日、見ている祖谷の自然でも、自分が知っている祖谷は、ほんの一部分。いつも、新しい発見があり楽しいもんですが、そんな事を感じることも少なくなっているのかなあ。

すべては、「どれだけのお金になるか」が重要な価値判断。

心の豊さは、失くしていくだけになる。こんなに自然に囲まれている環境に生きていても、その自然を感じなければなんにもならない。

まだ、この時期には、各地でもイベントが数多く計画、実施された。時に今年は、国民文化祭とやらで、県内で催され、県内各地域で関係のイベントが多かった。

そこで、当然ながら、その地域の特色を出したイベントになっていた。

とことん自分が住んでいる場所に目を向け、その歴史をひかえ、こだわり、楽しんでいるのが伝わってくる。

だからこそ、参加している人も見ている人も感動をおぼえ、また次もまたくなる、またやりたくなるくるのではないだろうか。

そこで、祖谷の時に東祖谷を

祭りあとさき

みてみると、どうだろうか。合併して、三好市になった時、旧東祖谷山村のイベントの中で、「平家祭り」と「国際琵琶戦国風大会」はAランクということで、地域性をいかした大切なイベントとして(多分)残されました。

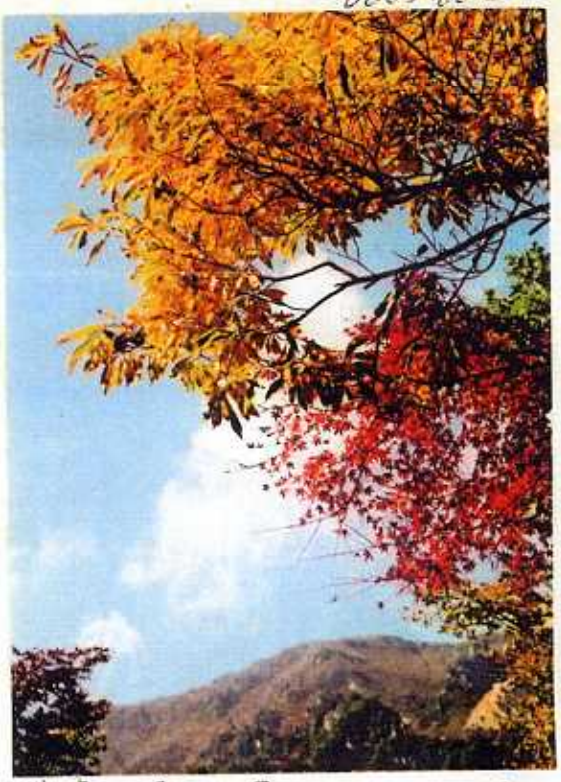
三好市となっても東祖谷で頑張れよという事なのに、すでに平家祭りは、昨年より琵琶のイベント広場に移ってしまっています。

若者として、平家祭りを運営している皆さんは大変だとおもいますが、どこか違うのじゃないかと感じます。

「親も来が多いオがいい」と言うのであれば、別に東祖谷や祖谷にこだわることもないでしょう。もっと多くの人が集まる所で実施すればいい。

平家伝説の多く残る東祖谷を考えこだわるなら、考え直す必要があるのではないだろうか。

東祖谷に住んでいる私達が、この東祖谷を「どうにかせないかん」と行動していかなければ。



なんでも祖谷募集

どこへ行けば「祖谷」に関係する事が知ることができるんだろう？

そんな様々な資料がそろっていると場を作れないだろうか…　そこで祖谷村図書室、松岡文庫がある龍宮崖コテージの一角に、「なんでも祖谷」のコーナーを考えています。　祖谷の歴史や名前が祖谷とつくものなどが載っている雑誌、本、話、俳句、音楽などを募集しますので、この際、ご協力して下さい。

過去を消すと未来がなくなると言われますが、祖谷の過去の事を知ることで明の祖谷について考えることが出来る。誇りに感じるとおもいます。　よろしくお願い